

「山口県から見た星座」写真完成!

「ほっとやまはく」タイム⑫



その一部を見ることが出来ることを紹介しましたが、それから2回季節が回りました。その後の調査結果や進展について報告したいと思います。

過去の新聞や文献調査結果

約2年前のほっとやまはく29号「星座が決まって100周年」(2022年12月21日掲載)の中で、山口県で見ることのできる星座について話をしました。星座の一部だけを含め、見ることが出来るであろう76星座のうち、75の星座を写真に収めることができていました。あと一つ、「みなみじゅうじ」座だけが撮影できていませんでした。みなみじゅうじ座は、冬から春にかけて上関町や周防大島町などの県東部で

次に過去の天文雑誌や新聞記事などを探すと、少しずつヒントが出てきました。1990年1月に宇部市の会社員が屋代島(周防大

島町)でみなみじゅうじ座のγ(がんま)星「ガクルックス」の撮影に成功したという新聞記事。翌年、そのことを天文写真家の大御所である故・藤井旭さんがコラム内で「山口県の大島で18年がかりでついに写真撮影に成功したという天文マニアが現れました」と紹介されている記事などが見つかりました。

現地調査

そこで撮影場所を周防大島町の嵩(だけ)山、平生町の大屋(おおほし)山、上関町の皇座山に絞って写真撮影に出掛けることにしましたが、二十数年ぶりに訪れた皇座山は、樹木の生長などで南の視界が悪かったため候補から外し、他の2地点に調査に出掛けるようになりしました。その結果、今年5月に嵩山で撮影に成功しました!

嵩山の標高(618m)と大気による屈折現象により、水平線下のはずの十字の一番北側の星「ガクルックス」を、愛媛県の佐多岬半島の山と山の谷間に撮影することができました。20回以上通ったの撮影成功となりました。現在、県立山口博物館で「南十字星が見えた!」と題して展示を行っています。なぜ

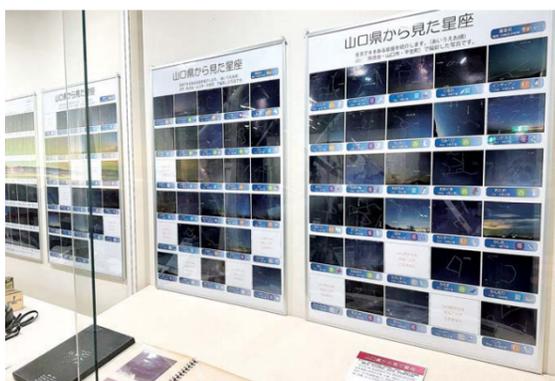
赤いのかという質問を受けます。ガクルックスはもともと赤く見える星で、その光が厚い大気を通ってくるため夕日と同じようにより赤く見えるのです。残念なこと地球の歳差(地球の自転軸の向きが時とともに変わる現象)運動により、ガクルックスの見える高度は年々低くなっています。近い将来、山口県からは見えなくなってしまう。逆に、過去はもっと高く見えたことに気が付き、シミュレーションソフトで過去にさかのぼって計算すると、中世大内氏時代は宇部市でも十字の北側三つの星が九州の山々の上に見えていたことが分かりました。

みなみじゅうじ座を撮影したことで、山口県から見た星座写真は完成し、調査も終わるかと思われましたが、調査研究を通して、地元の人から「昔はよく見えていた」「昔、南十字星が見えていたから大星山と名前が付いた」「〇〇にいん石があると聞いた」などの話をうかがいました。まだまだ現地での調査・検証が必要で、天文学会員の県東部への調査旅行が続きます。今後の進展にご期待ください。

岩村和政(天文担当学芸員)
▽次回は18日です。



みなみじゅうじ座のガクルックス星(中央の赤い点、左右方向に伸びた赤いラインは佐多岬半島の道路の街灯)とイラスト



2年前の企画展の「山口県から見た星座」写真



昼間に嵩山から見た佐多岬半島

山口県立山口博物館
TEL 083-922-0294
月曜休館(祝日の場合は翌日)。最新情報はホームページで。

